

# 保護者保育指導の大学教育における教育内容,教育方法の検討 — 保護者保育指導技術の学習過程を通して— 第1報

青木 利江子

A Study of the Instructional Materials and the Methods  
by which Parenting is being taught in Universities :  
How Students Acquire the Skill of Teaching Parenting over a Two-Year Period  
( I )

Rieko AOKI

近年、核家族化、地域社会の疎遠等の中で、成長過程において乳幼児とふれあうことが少なく、育児に関する基本的な知識、かかわりの経験が少ない子供が増えている。その結果、親世代になってもどのように子育てをしていけばいいかわからず、育児不安になり、子供の心身に影響を与え（生活リズムの乱れ、欠食、食生活の乱れ、虐待等）、子育てにおけるさまざまな問題を起こしている。その中で、子供たちが母子の愛着、生活リズムを形成し、心身の基礎を築く時期に、保育士は大切な役割を担っており、「保護者に対する保育に関する指導」が児童福祉法に定められた。（以下保護者保育指導）本研究は、幼稚園教諭、保育士を志す短期大学生の、学習過程を通じた保護者保育指導技術の変化を分析し、大学における保護者保育指導の教育内容、教育方法を検討したものである。

はじめに

## 保護者保育指導

児童福祉法 18 条 4 は、「保育士とは、第 18 条 18 第 1 項の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術を持って、児童の保育および児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。」と定めている。また保育士の専門性について平成 20 年 3 月に保育所保育指針解説書は「保育士の重要な専門性の 1 つは保育であり、2 つは児童の保護者に対する保育に関する指導(以下保育指導)です。」(本研究では以下保護者保育指導)と述べている。保護者保育指導の意味は、「子供の保育の専門性を有する保育士が、保育に関する知識、技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保

護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子供の養育（保育）に関する相談、行動の見本の提示その他の業務の総体をいう」（保育所保育指針解説書）とされている。

昨今の虐待、自殺、不登校、ひきこもり等の子供をめぐる問題は深刻であり、また思春期、青年期になると親や他者の殺害等の社会問題にもつながっている。要因は経済構造、格差社会などの社会構造、ゲームやインターネット社会における自己誇大感、利便性による生活力および生命力の低下、家族形態の変化等多くのことが考えられる。また、そうした中で子供たちは、かつて日々の生活から学んできた多くのことを学ぶ機会を失ってしまった。現代の親は、核家族化し子育てに対する知識や支援者もないまま、子供たちに日々の生活から自然に学んできたことまで教えて行かなければならない。そうした状況の中で、子供の保育に関する知識や技術を持ち、日々実践を行っている保育士は、保護者に対して相談、居場所作り、支援のためのネットワークの構築等の大切な役割を担っている。

柏女は「児童の保護者に対する保育に関する指導」業務の専門性の必要性について以下の4点をあげている。「その理由は第一に、保育者による子育て支援の基本的視点が十分に整理されていないため、現場に、どこまで行う必要があるのかといった疑問や混乱が生じていることがあります。第二に、保育者がこれまで実践を通して培っていきながら体系化されてこなかった保育を通じた保護者支援に対する十分な評価が行われないうちに、保育ソーシャルワークや保育カウンセリングが叫ばれ、そのことに保育者が動揺していることがあります。私たちは保育者が有している専門性に関する体系化を進めることによって、保育者の誇りと自覚を高めていくことが必要であると考えました。第三に公営保育所においては、ベテラン保育者の大量退職という2007年問題を目前にしており、保育者の保育を通じた保護者支援は緊急の課題ということが出来ます。そして最後に、今回の保育指針第1章「総則」や第6章「保護者に対する支援」などにおいて、保育所に入所している子供の保護者や地域における保育士の専門性をいかした保護者支援が規定されたことをあげることが出来ます。つまり、『保育士の専門性を生かした保護者支援』を明確化することが必要とされてくることとなったわけです。」

そこで本研究においては、学生の学習過程を分析しながら、保護者保育指導のより効果的な学習を検討してゆくことにより、より保育士の専門性を生かした、体系的で効果的な教育方法、教育内容について考察を進めていくことを目的とする。

### 育児相談課目創設の経緯と履修状況

育児相談は、保育士資格課程における「保護者保育指導」を教育するためのA短期大学独自の課目である。保育士資格課程、保育実践において必要な教育として、保護者支援を目

的に設置された。2年生後期の選択科目であり、保育学、教育学、社会福祉学、心理学、保健学、栄養学等の基礎、専門科目を履修し、実習を終了した学生が履修する。通年10名前後の学生が履修しており、本年度は、保育士、幼稚園教諭、施設職員を希望している5名の学生が履修した。

## 1 育児相談の教育内容と教育方法

### 教育内容と教育方法

育児相談科目は、これまで履修してきた科目の複合科目であるため、保育士資格課程における履修科目のシラバスから保護者保育指導において必要な教育内容を抽出した。また重なりのある部分は他科目の使用文献、教授方針、教授内容を伺い、保護者保育指導を育児相談において実践する上で必要な知識、技術についての教育カリキュラムを作成した。

保護者は保育に関する相談を保育全般の分野からしてくるが、その相談内容は多岐にわたっている。なおかつマスメディアや保育関連の書物も多く出版されているため、教育課程で履修したあらゆる分野からの質問が寄せられ、相談に応じる保育士にもそれぞれの分野における最新、かつ正確で、学問や研究に裏付けられた知識や技術が必要になる。そして対象が心を開いて相談し、自らの問題に気づき、それを分析することで、今後の対策を自ら考え、モチベーションを高く持ち、それを行動に移して行くように、相談を進めて行く専門的技術を身につけて実践して行かなければならない。

また保育士と他の専門職種との実践において関わる範囲を明確にすることも必要である。これは保育士の相談における専門性「保育における日常生活を心身ともに健康に送る上での指導」を越える内容の相談事例について見極め、他の社会資源に働きかけることが実践できなければならない。つまり保護者指導に関しては、保護者から相談されるあらゆる内容に関し、正確な知識を持ち、適確な判断とアドバイスをしながら、保護者自身が問題解決をするのを指導する総合的な実践力が必要とされる。

また実践に生かすためには、ロールプレイング等の演習を通じて、保護者や子どもを共感的に理解し支援する能力、保護者保育指導技術における専門性を高めていく必要がある。また保育現場では、保育士同士、その他社会資源の職員の人たちとネットワークを組み協力していかなければならない。そこでケースカンファレンスをし、ケース報告やケース検討をしていく能力も必要である。以上の観点から、(1)、(2)、(3)の教育課程を展開する。

#### (1) 保護者保育指導の相談場面に必要な専門的知識の講義

柏女は、保育指導（保護者保育指導）の基盤になる保育技術を、保育所保育指針より「①発達援助の技術、②生活援助の技術、③関係構築の技術、④環境構成の技術、⑤遊びを展開

する技術」に分類している。そこで上記に作成した教育内容を以下に分類し、事例のロールプレイング基礎演習の後に、講義を行った。

① 発達援助の技術

- ・言葉、発達、障害に関する指導、相談と知識

②生活援助の技術

- ・生活リズム、生活環境に関する指導、相談と知識
- ・母乳相談、栄養相談に関する指導、相談と知識

③関係構築の技術

- ・育児方法、育児不安、ストレスに関する指導、相談と知識
- ・虐待、家族関係に関する指導、相談と知識

④環境構成の技術、⑤遊びを展開する技術

- ・面接場面の環境構成に関する知識
- ・遊びを通した発達、親子関係、愛着形成の観察に関する知識

(2) 保護者保育指導の相談場面に必要な専門的技術の講義

対象の全体像の把握、情報収集の視点、方法、なお展開、評価の過程については社会援助技術にて履修、カウンセリングマインドについては教育相談にて履修

(3) 演習

事例のロールプレイング基礎、ロールプレイング専門的支援、ケースカンファレンス  
・ロールプレイング基礎

これまでの履修科目、実習を元に、事例をロールプレイングし、現在の保育専門家としての思考、相談方法を振り返る演習を設けた。またこの演習で、保護者、相談場面に参加する子どもの心理も振り返った。方法は、事例、環境構成、面接用具（記録用紙、絵本等）を設定して行った。なおロールプレイングの様子はビデオ撮影し、その映像は振り返りの際に使用した。

事例は、「園外からの相談事例（子育て相談会）で、月に一度の「子育て相談会」において、（日ごろのお母さんたちの育児の悩みに少しでも答えられるように心がけている。）あるお母さんから『3歳の子が夜の睡眠時間がほかのお子さんくらべると少ないけれど大丈夫か?』との質問に対しての相談である。」

### ・ロールプレイング専門的支援

事例のロールプレイング基礎演習における、自らの相談の振り返りを踏まえ、その後に学習した相談に必要な専門的知識に基づき、専門的支援を重点に置いたロールプレイングを展開する。

専門的支援において、事例は保護者と子どもの役のみが把握し、保育士役はブラインドにし、その場で相談に応じていくという形式をとり、より実践に近い形のロールプレイングに設定した。方法は、事例、記録用紙は設定して行い、環境構成、面接用具（絵本等）は学生が専門的支援に配慮し、設定して行った。なおロールプレイングの様子はビデオ撮影し、その映像を振り返りの際に使用した。

事例は、保護者が無作為に選ぶように設定した。Aは、噛み付きのある事例、Bは睡眠不足の事例、Cは言葉の遅れを心配した事例、Dは食事量の少ないことが心配な事例、Eはお菓子の与え方について家族間で対応の違う事例になった。

### ・ケースカンファレンス

ロールプレイング基礎、ロールプレイング専門的支援の事例を、それぞれの学生の取り組みを振り返り、今後に向けたよりよい取り組み、中、長期的な支援、社会資源の活用等の視点から全体でケースカンファレンスを行う。

## 2 研究目的

本研究では、育児相談科目の学習過程を通して学生の保護者保育指導技術の変化を分析し、大学における保護者保育指導教育のあり方についての考察をする。

## 研究方法

### 1 各学生の学習過程における保護者保育指導技術の変化を分析する

#### (1) 事例研究

- ・ロールプレイング基礎、ロールプレイング専門的支援の学生の自己分析。
- ・研究者はロールプレイングのファシリテーターとして参加し、観察法にて保護者保育指導技術の変化を観察、分析する。
- ・ビデオ記録は、ロールプレイングの振り返り、学生の自己分析過程、及び研究者の観察法の補足資料として使用した。
- ・ロールプレイング専門的支援の自己評価と観察者の評価

評価は、保育所保育指針の保育士の専門性の記述から「(1) 保育に関する専門的知識、技術 (2) 保護者が支持を求めている子育て問題や課題を把握する (3) その問題に対して、保

護者の気持ちを受け止める (4) 安定した親子関係や養育力の向上を目指して行う子どもの養育 (保育) に関する相談, 助言, 行動見本の提示等を行う。」4項目を設け, それに対して「できていた5点, だいたいできていた4点, ふつう3点, できていないところがあった2点, できていない1点」の点数をつけ自己分析する。また観察者も上記の内容の実施状況から評価した。評価の目的は, 自分の専門的保護者保育指導を振り返り, できている点, またさらに学びや深める必要のある点を把握し, 今後の学びに生かすためである。

## (2) 事例研究のためのデータ

### ・ワークシート1

保育士, 保護者, 子どもの役割分析: 学生の自己分析および観察法による学生の言動の分析

### ・ワークシート2

専門的支援分析: 学生の自己分析および観察法による学生の言動の分析

### ・ロールプレイング専門的支援の評価: 自己評価, 観察者評価

2 教育内容, 教育方法と学生の学習過程による変化の関係性を分析し, 大学教育における専門性を生かした, 保護者保育指導技術教育内容, 教育方法を考察する。

## 結果

1 各学生の学習過程における保護者保育指導技術の変化を分析する

### 事例研究のためのデータ

#### ・ロールプレイング基礎, 専門的支援の分析の考察 (ワークシート1・2)

#### 学生A

学生自身の分析 (保育士の役割)	観察法による学生の言動の分析
(ロールプレイング基礎) ・前傾姿勢, 目を見て話していたが, 繰り返しかえしや要約等があまりできなかった。 ・相談者がどんな答を待っているのかと感ずることが難しかった。 ・一概に「はい」, 「大丈夫です」とは簡単に言えない分, 考えている無言の時間は避けたいと思った。 ・また改善点, アドバイス等をするためには地域のことも知っている上で相談に応じた方がいいなどと思った。 ・笑顔とまではいかないが顔は真剣で目が笑っているような表情でのぞみたいと思う。 ・待っている子供の対応も考えることが大切だと思った。	・温かい雰囲気です話を進めていた。 ・子どもにも語りかけている。 ・睡眠に関する専門的な支援がもう少しあると良かった。

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>(ロールプレイング専門的支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫といい少しでも親を安心できるよう心がける。</li> <li>・家でのこと（他の兄弟のこと）を聞き、子供も過ごしやすく、子供の気持ちを考えることも大切だなと感じた。</li> <li>・保護者だけの気持ちではなく、子供の気持ちも踏まえてアドバイスをしていけたらと思う。</li> <li>・目を見て喋り、うなづくことはやはり最も大切な、重点を置くことを忘れない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に事例が知らされていないので、相談者が話し始める前は非常に緊張している様子。</li> <li>・環境設定し、入り口まで自分で迎えに行き、相談者が安心するような和やかな様子で迎える。</li> <li>・相手の話をゆっくり聞きながら、話を進めている。</li> <li>・かみつき行為の専門的支援の説明ができている。（関係構築の技術、発達援助の技術）</li> <li>・年齢の心理、行動面での発達の説明ができている。（発達援助の技術）</li> <li>・兄弟の状況の把握、対応の仕方、兄弟関係の支援についても対策と一緒に考えられている。（関係構築の技術）</li> </ul>
<p>(ロールプレイング基礎と専門的支援の変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の環境も考えるようになった。</li> <li>・要点のまとめがはやく頭の中で行われるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイング基礎と比較し、相談者を中心に相談を進めていた。</li> <li>・アドバイスも相手の考えを尊重し、的確な専門的知識の裏づけに基づいた相談ができていた。</li> <li>・保護者保育指導においては、相談時間の中で相談者の対象把握、相談者中心の問題の表出、今後の対策という、ケースワーク面接において何回かのなかですることを短時間に行うので、相手の相談内容についてはやく頭の中でまとめられるようになったのは保護者保育指導技術にとって大切なことを学んでいる。</li> </ul>

学生 B

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（ロールプレイングの基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは保護者の不安を取り除くことが大切だと思った。</li> <li>・他のお子さんと比べることはしないほうが良いと伝えた。</li> <li>・その上でどうすれば、一番、子どもにも保護者にも安心した生活が送れるのか考えて助言することが出来れば良かったが、上手にできず、自信のある発言ができなかったため、保護者は不安を感じただろうなと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の話を傾聴し、話しやすい雰囲気を作り、話をすすめていた。</li> <li>・子どもからも話を聞いていた。</li> <li>・保護者と子どもの両者の気持を大切にしていた。</li> </ul>
<p>（ロールプレイング専門的支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お昼寝の大切さや理由をうまく説明できなかった。生活のリズムを作れるように声掛けしていくようにする。保育園でできるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お昼寝と年齢についての説明はできており、家族間の人間関係（夫の協力）についても状況を理解し、話し合うことができていた。</li> </ul>
<p>（ロールプレイング基礎と専門的支援の変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて話を聞けた。一方的に話すだけでなく、保護者の話を質問等できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の気持を共感的に理解することによって保護者は安心して、相談し、ともに問題の解決に向けてともにすすめてゆけるので、保護者の気持に沿う姿勢はとても大切である。</li> </ul> <p>（生活援助の技術） （関係構築の技術）</p>

学生 C

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（ロールプレイング基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠が少ないことで何が問題になるのか、よく理解できていなくて、答えることができなかった。</li> <li>・聞くことはできても、どうしたらいいのか一人では考えられないなと感じた。</li> <li>・普段の園での様子を聞いたりしながら、質問したり、答えてゆければ良かったと思う。</li> <li>・質問はしていたが何を考えて質問したのか相手に伝わっておらず、相手をこまらせていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に緊張している様子。</li> <li>・沈黙の時間が合ったが少しずつ、相談者の話を聞いていた。</li> <li>・子どもへの語りかけがあるとさらに良かった。</li> </ul>

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>(ロールプレイング専門的支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに対してどう話しかけたらいいのかまよってしまった。</li> <li>言葉の発達が遅いということで、考えられる事を思い出しながら、少しは行えたのかなと思った。</li> <li>相談者に対して自分がどういう立場にいるのかわからずに迷うことがあった。(設定が保育士にはブラインドだったため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境構成が子どもに配慮して形成されていたので、その環境の中で子どもへのかかわりを展開できると良かった。(環境構成の技術)</li> <li>年齢と言葉の発達、絵本の読み聞かせ、集団に参加する効果、個人差等、保護者の気持ちを考えながら、専門的な言語発達の支援ができていた。(発達援助の技術)</li> <li>保護者が話すときに、保護者の方を向いてうなずきながら聞いてあげると、聞いてもらっているという安心感が生まれる。</li> <li>言葉の遅れの相談事例だったので、子どもに言葉の習得状況を確認したり、はたらきかけの方法を行動見本として提示できると良かった。</li> </ul>
<p>(ロールプレイング基礎と専門的支援の変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回よりも相談者に対して受け答えができてきたのかなと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前は睡眠について、専門的説明や支援の方法を答えることができなかつたと分析しているが、今回は専門的支援による説明や対策を話すことができていた。</li> </ul>

学生 D

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>(ロールプレイング基礎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の園だと、毎日の様子がわからないので、保護者にもどのようにアドバイスしたらいいのか難しく感じた。</li> <li>保護者の質問に対しても答えることが大変だと感じた。</li> <li>子どもに対する配慮を忘れがちになってしまうことが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにも話しかけていた。</li> <li>睡眠に対する専門的支援がもう少しあると良かった。</li> </ul>
<p>(ロールプレイング専門的支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本をもう2冊ほど多く用意しておけばよかったと思った。途中で子どもの方が絵本にあきてしまったので、子どもに対する配慮をもう少し考えるべきだったと思った。</li> <li>自分が考える時間が長すぎたので、色々な知識を頭に入れておくべきだと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事について、食事量の把握、子どもの気持ち、具体的な食事指導の進め方を保護者の気持ちや考え方、家庭環境に配慮しながら専門的支援をしていた。(生活援助の技術)</li> <li>子どもへの話しかけも良く行われて、子ども自身からも食事支援に対する情報を収集していた。</li> </ul>
<p>(ロールプレイング基礎と専門的支援の変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前に比べて話を冷静に聞き、考えて話すということはできていたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や子どもの気持ちや状況に沿い、食事に関する専門的支援が具体的にできていた。(生活援助の技術)</li> </ul>

学生 E

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（ロールプレイング基礎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者にもよるけど、なかなか話しづらそうにしてる人であれば、いきなり相談にのるのではなく、まずは気持ちが和らぐように話しかけると良かったと思う。</li> <li>・話を聞いて、あいづちをうちながら、相手の気持ちを共感し、言葉にして伝えることで、理解してもらえると感ずることができると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者のほうを見て、理解しようとする姿勢が見られる。</li> <li>・睡眠に関する専門的支援はあまりない。</li> </ul>
<p>（ロールプレイング専門的支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の園に通っていない子どもが来たので、全く知らない人の相談はまずその人から理解しないと相談内容に入れないと思った。</li> <li>・祖父母との関係などはなるべく悪くならないように、その行動についての意図を代弁しながら、保護者がこの先どうしていきたいのかを確認できたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お菓子の与え方、量、時間についての把握、食事との関連等、保護者と子どもから、問題の状況、気持ちを丁寧に情報収集していた。（生活援助の技術）</li> <li>・祖父母の状況についても情報収集し、祖父母にお菓子と食事、虫歯の話をする事、また祖父母の子どもへの気持ちの理解等、家族間の人間関係に配慮した対策をともに考えていた。（関係構築の技術）</li> <li>・父親の協力等他の家族の協力状況や働きかけについても話し合われていた。</li> </ul>
<p>（ロールプレイング基礎と専門的支援の変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より、保護者がどうしたいか自己決定ができるように話を進められたと思う。またなに気ない会話から話に移れて和めたかなと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい関わりをするための家族関係や家族へのはたらきかけ等にも配慮が出来ていた。</li> <li>・相談者に対しても、承認、相談者の気持ちを配慮して、専門的に相談を進めていた。</li> <li>・子どもに対しても準備した環境構成を利用し働きかけていた。</li> </ul>

・ロールプレイング専門的支援の自己評価

（できていた5点、だいたいできていた4点、ふつう3点、できていないところがあった2点、できていない1点）

	1 保育の専門的知識・技術	2 保護者の求める問題の把握	3 保護者の気持ちを受け止める	4 保育に関する相談、助言、行動見本
学生 A	4	3	2 *	3
学生 B	1 *	3	2 *	3
学生 C	3	3	3	3 *
学生 D	4	3	3 *	3
学生 E	3	3 *	4	4

## 考察

### 1 教育内容、教育方法と学生の学習過程による変化(保護者保育指導技術の変化)の関係性を分析する

#### 学生 A の分析

- ・ 相談者の相談しやすい雰囲気を作り、落ち着いて相手の話を聞きながら、相手の考えを尊重し、ゆっくりと応答をしていた。
- ・ 的確な専門的知識に基づいた相談をしていた。
- ・ 相談場面の時間は、送迎時や家庭環境により、短時間に行う場合も多いので、相手の相談内容について、早く頭の中で整理できるようになったのは、保護者保育指導技術の大切な点を学んでいる。
- ・ 3の保護者の気持ちを受け止める点の自己評価が低い。実際の面接場面ではよく傾聴できていた。共感的に保護者の気持ちを理解することは、保護者保育指導の大切な点であるので、どのようなところができていないと考えるのか、またその原因についても考え、今後に生かして行ければと考える。\*

#### 学生 B の分析

- ・ 落ち着いて保護者の相談を把握していた。
- ・ 家庭環境にも考慮し、お休みの日の過ごし方等の対策を保護者と一緒に考えていた。
- ・ 相談者に他に心配なことはないか、心配なことがあったら来るように次回につなげることもしていた。
- ・ 午睡についての質問があったときに、専門的知識がなく十分に説明できなかったとの理由で自己評価が低かった。年齢が小さいので、体力的な理由で必要等の説明はできていたため自己評価はもう少し高くてもいいと考えられる。\*
- ・ 保護者に対する共感の自己評価も低かった。共感的理解については、他の生徒も自己分析が低く、相談に置いてはとても大切なことなので、ロールプレイングでの保護者の役割等、保護者の気持の理解を深める学習を更に確認してすすめたい。\*

#### 学生 C の分析

- ・ 相談者の状況や話を丁寧に聞いて、心配のないように配慮していた。
- ・ 言葉について、年齢と言葉の習得、個人差等、働きかけも提案し、専門的支援をしていた。
- ・ 環境構成もよくできており、二語文、音を楽しむ本も用意していたので、子どもに働きかけ、情報を収集するとさらに良かった。\*
- ・ 自己評価が全体的に低い。自己分析で、1回目より2回目の方が専門的支援についても話

せたと記述しているのので、自己評価をもう少し高くしてもいい。今後は子どもへの働きかけ、観察等を実践できるようにするとさらに望ましい。\*

#### 学生Dの分析

- ・保護者、子どもの両方から、問題のための情報を収集していた。
- ・問題に対しても保護者や子どもの気持ちや家庭環境を配慮し、具体的に実践可能な子どもの喜ぶ食事方法を保護者と相談しながら専門的に進めていた。
- ・一方保護者の受け止め方については、自己評価が低い。保護者の役割分析は、1回目と2回目の変化がないと記述している。ロールプレイングの保護者や子どもの役割をする意味を再度確認し、保護者の気持ちに共感できるようになると、受け止めていることについて肯定感を持ちやすくなると考えられる。\*

#### 学生Eの分析

- ・専門的支援に関しては、1回目と比較し、専門的知識を背景に対応していた。
- ・保護者の気持ちは1回目のロールプレイングの分析時も配慮していたが、2回目も保護者の気持ちを傾聴し、共感的姿勢で、保護者の気持ちに沿った対応をしていた。
- ・家族関係についても、夫の協力や祖父母との関係の構築等さまざまな視点から配慮されていた。
- ・環境構成もよく配慮されており子どものプレイゾーンの設定をし、実際に使用していたが、保護者の相談が、お菓子や虫歯に関することだったので、子どもの気持ちを把握するとさらにより相談者に沿った働きかけができた。\*

#### ケースカンファレンスの分析

相談に必要な専門的知識を学習後、ロールプレイング基礎の事例に関して、専門的知識に基づきケースカンファレンスをし、相談事例の今後の指導計画について討議を行った。討議では、専門的な知識に基づき、事例にそった中・長期的指導計画に関する意見が出された。

#### 保護者の役割、子ども役割の分析

- ・保護者の役割の分析

「保育者が笑顔でいるとすごく安心する感じがした」「適確なアドバイス、実行できることを教えてくれたので安心した」「大丈夫と言ってもらえるだけですごく安心する」「聞いてくれるという安心感が生まれる」「無言になられると不安になる」「話しやすいような雰囲気じゃないと緊張してしまう」「自分の相談内容に対して思っていた返答がないと悩みは解決しにくいのかと思った」「睡眠時間が少ないことで、何の問題が有るのか、細かく聞ければ

よかったなと思った」等、保育士を見る視点、問題解決に必要な対応等、保護者の立場に立ち、客観的に感じていた。

一方ロールプレイングの実施時には、分析シートに「相談者の気持の理解はされていたか、問題解決はできそうか等の項目」を振り返りの項目に入れると、より「保護者の気持ちの共感への振り返り」ができる。保護者の役割をする理由は、保護者の立場に立ち、「相談にきて良かったと思えるか、また相談内容に対してこれからどのように考え、具体的にどのようにして行けばいいのかを考えることができたか」、ということを感じてもらうためであり、ロールプレイングの学習過程の各段階で、それぞれの役割を演じる意味についても説明を詳しくする必要はある。

#### ・子どもの役割の分析

「お母さんと知らない人が自分の話をしているじゃまってしまう」「何を話しているかわからないので暇」「かしこまった場所は嫌」「大人同士の話の中で座って話を聞くのはつらいだろう」「すぐあきてしまう」「3歳の子どもの様子をあまり想像することが出来ずとてもあまいな答えになってしまった」等子どもが相談場面に参加するのは子どもにとって困難な状況であること等を感じていた。

保育士が保護者指導、相談に応じる場合は、園内の場合は送り迎えのときが多く、子供が側にいる場合が多い。また園外の場合も子供と一緒に連れてくる場合が多い。保護者が対象の面接の場合、人員に余裕がある場合は、子供を他の保育士が見ている場合もあるが、一緒の場合も多い。そばで聞いている子供に配慮する視点は理解できているが、「親子関係や子供の発育、発達の観察、あるいは相談内容との関わり、また環境構成をする際に配慮した点をふまえ、具体的にどのようにかかわるのか」を中心にした取り組みの演習を、ロールプレイングの講義に取り入れるとすると、具体的な関わりが実践できるようになると感じた。

#### 環境構成の技術の分析

2回目のロールプレイングに置いては、専門的支援能力の向上のため、学生が専門的知識を生かし、環境構成を行った。環境構成理由としては、「話をするという気持ちになるように普通の部屋に近づけるように設置した」「時計は両者が見えるように二つかけておく」「相談者の目線から子どもが見えるような所にマットを敷く。」「花を置いてリラックス」「相談者が外に見えないようにカーテンをする」「椅子は丸い角のない素材で気持ちを和らげる」「子どもが転んでも痛くないようにカーペットを敷く」「おもちゃは、遊んでいる用、指先などの発達を見る用、考える力を見る用を用意する」「絵本は理解力、物のとらえ方、色の識別などの知識を見る」「自ら遊びをすることが出来るかを見るためのおもちゃ、積み木、ブ

ロック」「2語文、音を楽しむ本」「発達などの遅れはないか観察できるように保育士の位置を奥に座るようにする」「おもちゃコーナーを創り、大人が話している間も子どもがあきてしまわないようにする」「虐待で暴力の可能性もあるかもしれないので、保育者は入り口近くに座る（すぐに逃げられるように）」等、専門的知識を生かし、保護者、子ども、保育者の関わり方によく配慮した環境構成を展開していた。

### 遊びを展開する技術の分析

相談場面での子供の発達の観察、遊具の意味等の講義は行ったが、環境構成場面では子供に配慮はできており、「言葉の発達が遅いということで考えられることを思い出しながら少しは行えたかなと思った。」「子供の気持ちも考えることも大切だなと感じた」等、子供に話しかけたり配慮する様子はロールプレイングの中で観察できた。しかし保育者の役割の中では、「子供にどう話しかけてよいか迷ってしまった。」あるいは子供の役割の中では、「本を読んでいいよといわれて、読んでいたのですが子供だったらお母さんのところに本を持っていかないのかなと思いつながりながら演じていた」「せっかく絵本があるのに使わなかったり、声をかけられないとどうしていいかわからなかった」等、環境構成で子供に配慮した遊びの展開が面接場面で生かされていない部分があった。また環境構成において絵本等の選択で、言葉の発達や大小、色の識別等に配慮した準備をしているので、それを相談の保護者保育指導の中で展開して行けるようにさらに「遊びを通した発達、親子関係、愛着形成の観察に関する知識」の講義を演習も踏まえて、補足する必要がある。

## 2 大学教育における専門性を生かした、保護者保育指導技術教育内容、教育方法を考察する。

### 教育内容

#### 保護者保育指導の専門性

##### (1) 保育士による専門的支援の特性

相談者は1回しか来ない場合もある。

相談時間の中で、相談者の問題を解決する糸口を相談者とともに探す。

(相談時間は、保護者の都合で少ししか取れない場合もある。一兄弟の保育、仕事等)

相談場面の多くは、登園、降園時、子育て支援日(園開放、相談開催日)、入園時相談等。

在園児の場合は、日ごろから保護者と信頼関係を結んでおく必要がある。

初めての相談の場合にも話しやすい雰囲気にする。

(環境構成、質問の仕方等)

##### (2) 保育相談の進め方の特性

相談者が何を求めて相談に来たのかに心を注ぐ。

(保護者の気持ちを受け止める、悩みを聞いてほしい等)

相談内容に対しての情報収集をする。

①対象の理解、②問題の現状、③それに対して保護者はどのように考え、どのようにしたいのか。)

相談内容の分析、①～③を傾聴する中で、④保護者と共に、保護者の実現できる、具体的な問題解決の方法を探っていく。

(専門的な正確な相談内容に関する知識、保育者としてアドバイスできる範囲。医学的な判断の必要な事例、及びより詳しい情報の必要な場合は、相談機関の紹介または必要な情報は後日連絡する。)

### (3) 保護者と共に問題解決の方法を探る過程

- ・専門的な正確な保護者保育指導内容に関する知識
- ・新しい情報、知識等の収集・具体的な対策を考え、提示できるための情報・資料を用意しておく。

・診断を受けていない限り、保護者は心配をするので診断的な言葉は使用しない。

(発達の遅れ、病名等は保護者に心配を与える、可能性のある場合は医療機関への受診、または働きかけに対する提案にする)

### (4) 保護者と共に対策を検討する過程

保育場面での相談活動である。

相談内容に対して具体的状況、行動見本を示すことができる。

①具体的な状況 (保育園児の発育、発達の様子等)

②具体的な行動見本 (保育者の園児への関わり方、障害児への関わり方、遊びの方法、環境構成等)

### (5) 保育相談の継続支援、評価の特性

相談場面、相談対象が1回性のものである場合は、継続支援、評価は難しい場合がある。1回で終了することも想定して相談、支援、今後の計画、実施について話し合う。

(電話での匿名相談、保育支援に参加した園外保護者等)

相談内容により継続性の必要な場合は、連絡方法 (名前、住所、電話番号等の情報) を収集しておく。

相談の最後に、相談窓口として利用する場所として今後も利用できること、継続の必要な場合は、保育園、幼稚園で継続支援するか、社会資源を利用して継続支援をするのか方向性について保護者と話し合い、相談の最後に伝えておく。

### (6) 相談の器の特徴

①場の特性

保育園，幼稚園での相談

保育場が展開されている場所

地域の場所である場合，親しみをもちやすい。

保護者，子供に親しみや信頼性をもちやすい場である。(環境構成)

## ②相談者の特性

園内の保護者の場合は，子供の状況をよく把握しており，信頼をもちやすい。

園外の保護者の場合も，保育の専門家として信頼をもちやすい。

保育，教育，保健，栄養，心理，社会福祉の総合的な知識と技術を持つ保育の専門家である。

(1) (2) は，保護者保育指導の概要

(3) は，保護者保育指導の専門的知識

(4)，(5)，(6) は保護者保育指導における相談技術に当たると考えられる。

## 教育方法

この分野は，まだ学問体系として確立されていないため，体系的に保護者保育指導について学習を展開するための文献が少ない。本研究において作成したカリキュラムは，学生が将来保育の実践に置いて，保護者保育指導を行うにあたり，より良い実践を行うことが出来るように考案したカリキュラムである。

今回，保護者保育指導の学習の過程を分析し，「保護者保育指導」の知識と技術について，学生は他の科目の履修，実習等及び，保護者保育指導に必要な知識と技術の講義を得て，ロールプレイング基礎のときと比較し，2回目であるロールプレイング専門的支援においては，より専門的な保護者保育指導を展開できていた。一方それぞれの学生の学習過程を分析すると，それぞれ持つ課題は，学生により違いはあるが，「保護者の共感的理解を深めること」，「保護者保育指導場面における，子どもの観察と関わり」等，共通した課題も見られた。

今後はそれらの課題についての，より効果的な教育内容，教育方法を模索し，さらに学びを深めてゆければと考える。

## あとがき

今回の，カリキュラムの検討及び学習過程の分析の中で，保育士の専門性の一つである保護者保育指導には，心理学，社会福祉学，地域看護学等と対象や相談内容においても類似しながら，それらの学問領域の知識や技術をメタパラダイムとして背景にし，応用しながら，

保育学独自の専門性を持つパラダイムが、その知識、技術分野にあることがわかった。今後はさらに保育の専門性を深めた保護者保育指導教育を展開し、「保護者がより安心して子どもを育て、子どもたちが健やかな成長を育んでいけるように、そのための大切な役割を学生の一人一人が、将来少しでも保護者保育指導において実践でえる」ように取り組んでいきたい。

今回論文作成に置いて、学習の過程でロールプレイングとその分析等、学習効果の分析のためにも協力してくれた育児相談履修の学生にもこの場をお借りし感謝したい。

### 参考文献・引用文献

- 1) 保育法令研究会 2008 保育小六法（平成20年版） 中央法規
- 2) 松本峰雄 2005 保育士のための 社会福祉の方法 -社会福祉援助技術- 建帛社
- 3) 金子智栄子 2008 子どもの発達理解とカウンセリング 樹村房
- 4) 柏女霊峰 2008 保護者の保護者支援 保育指導の原理と技術 フレーベル館
- 5) 外林大作 2004 教育の現場におけるロールプレイングの手引 誠心書房
- 6) Reymond J.Corsini (金子賢訳) 2008 Roleplaying in Psychotherapy :A Manual 金子書房
- 7) 台利夫 2003 新訂 ロールプレイング日本文化科学社
- 8) 福井逸子 2008 乳幼児とその家族への早期支援 北大路書房
- 9) 田中享胤 2006 保育者の職能論 ミネルヴァ書房
- 10) 田中享胤 2006 保育内容総論 ミネルヴァ書房
- 11) 中島紀子 2007 保育指導法の研究 ミネルヴァ書房
- 12) 小林育子 2006 保育所の子育て相談-相談の基本・事例とアドバイス- 萌文書林
- 13) 丸山美和子 2007 子供の発達と子育て・子育て支援 かもがわ出版